



鶏けいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「清い生活を送るようにしなければなりません」

聖書(エフェソ書4章24節)

牧師 河合裕志

「清い生活」なんて言われるととても抵抗感がある。清い生活なんてどうせ送れるものではないので。パウロは一体どういうつもりでそう言うのか。彼はこの段落で清くない生活について次のように述べている。

①「放縦な生活をし、あらゆるふしだらな行いにふけている」。生活態度が勝手気まま。だらしが無い。品行が悪い。具体的には金遣いが荒い、酒ぐせが悪い、ギャンブル依存、真面目に働かない、不規則な生活……いろいろと上げることができそう。

②「情欲に迷わされている」。性的欲望のままに突っ走る。浮気をする。セクハラ事件を起す。

上記に上げた①②が清くない生活となる。イエスの語った「放蕩息子のたとえ」が思われる(ルカ15章)。この息子は父親より財産を譲り受けると遠方に出かけ娼婦と遊びたわむれ放蕩の限りを尽くしてスッカランになるという話し。①②を満たすような生活をしたということになるか。

それでは「清い生活」とはどういう生活か。それは①②を離れた生活に違いないが、それに加えて次が期待される。パウロは言う。

④「神にかたどって造られた新しい人」。これは創世記1章27節に基づく言い方。「神は御自分にかたどって人を創造された」とある。ドイツ首相のメルケル氏はこう記す。「わたしの出発点はキリスト教的な人間像です。人間は神の似姿として神によって創られ自由に生きるべく召されている、と聖書には書かれています」(『わたしの信仰』より)。今パウロは「新しい人」と述べ、この与えられた自由を神に喜ばれるように用いる人になるという意味で言っているのだろう。

⑤「真理に基づいた正しい生活」。真理は正しい道理・知識といったもの。これをわきまえて生活すれば無軌道から守られる。また真理はキリスト自身と言ってもよい(ヨハネ14・6)。キリストの愛を深く知ること、そしてその愛に励まされて隣人愛に進むこと。

以上①②を離れることは消極的な清い生活、④⑤は積極的な清い生活と言えるかも。しかしどちらにしてもこれを身に着けることは簡単なことではないだろう。それこそ神の助けが、キリストの導きが、またパウロや先人の励ましが必要となる。そして少しでも清い生活が送れるように日々祈って行きたいもの。日本の全ての人がこの祈りをもってもらえれば。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時

お話し会、(面談)：水曜日午後1時～7時